

## 専門学校 久留米リハビリテーション学院 授業評価 —令和4年度の結果—

本学院では、授業の質の向上を念頭におき、「学生の授業満足度の把握と教員の研鑽」を目的として、専任教員の担当科目を対象に平成18年度より授業評価を開始、平成20年度より本格的にアンケート結果の分析を進めてきた。これを実施することにより、各教員が担当している科目の授業内容を振り返り、次期あるいは次年度に活用することで授業の質の向上を目指した。しかし、授業アンケートを進めていく中で、このアンケート結果を個々教員の授業改善だけでなく全教員がある一定の教授力を持てるように活用することで教育の質の担保ができないかと考え、平成23年度に授業アンケートのリニューアルを実施し、久留米リハビリテーション学院の授業における教員の取り組みや学生の満足度を広く公開することとした。

### 【学生による授業評価】

#### 1. 評価項目

授業評価項目は、授業に関する一般事項を大項目とした。大項目および細項目ともに、平成22年度までの授業アンケートから評価内容や項目数の見直しを行った。大項目および細項目については、以下に示す。

##### (1) 授業構成

- ① シラバスの教育目標は明確に提示していた。
- ② シラバスの教育目標は達成された。
- ③ 授業内容を理解するにあたり適切に教科書及び講義資料の提示が行われた。
- ④ 授業内容を理解するにあたり適切な時間配分をもって行われた。

##### (2) 教員の授業の進め方

- ① 話し方は、明瞭で聞き取りやすかった。
- ② 重要なポイントを明確に示し、理解度を深めるための配慮を行っていた。

##### (3) 教員の伝え方

- ① 適切な授業環境を保つことに努め、効果的に学生の参加(発言等)を促した。
- ② 適切な助言を与えてくれた。
- ③ 実習や国家試験に活かせる知識・技術を習得することができた。

##### (4) 教員の関わり方

- ① 授業に対する熱意を感じた。

##### (5) 学生の授業へのモチベーション

- ① 授業中は、集中して教員の話や説明を聞いた。
- ② 授業に意欲的に取り組んだ。

#### 2. 評価の方法および集計方法

平成22年度までの授業アンケートにおいては、評価項目に対し「強くそう思う」「そう思う」

「そう思わない」「強くそう思わない」の4つの選択肢のうち該当するもの一つを選択してもらい、どの選択肢にも該当しない項目については「無回答」としていたが、項目を見直し「強くそう思う」「そう思う」「どちらとも言えない」「そう思わない」「まったく思わない」の5つの選択肢に変更した。回答対象者のうちアンケート実施日に欠席した学生を「無回答」とした。また、感想・意見・希望などについては、前回のアンケートから変更せず自由に記載してもらった。

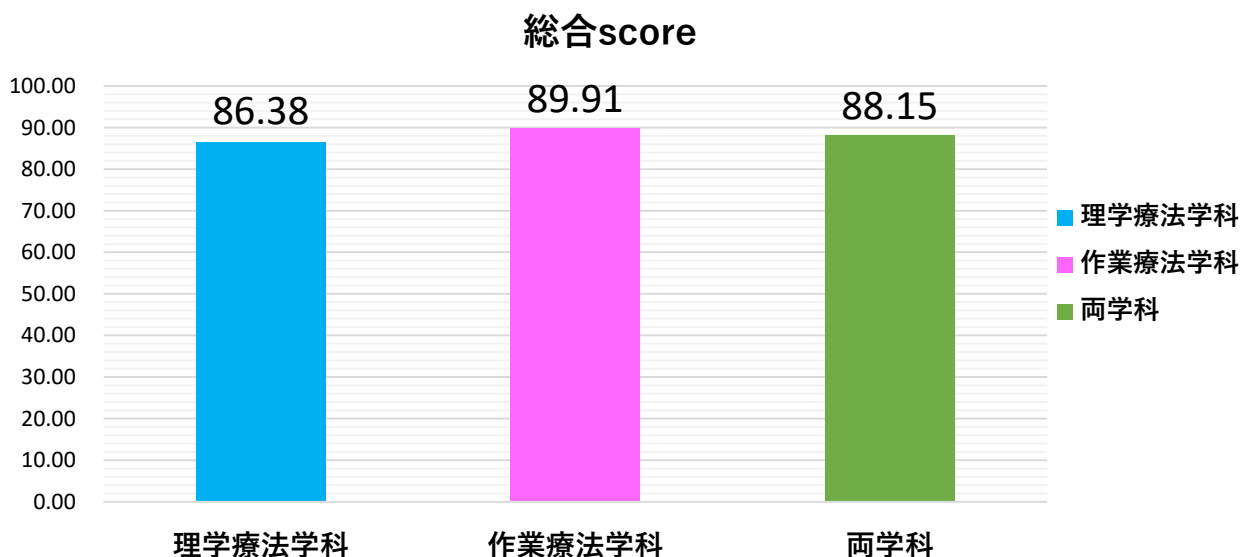
集計方法については、各選択肢を以下のように点数化し、各項目についてすべてが「強くそう思う」だった場合を満点として100点満点換算し、その割合を大項目ごとにグラフ化した。

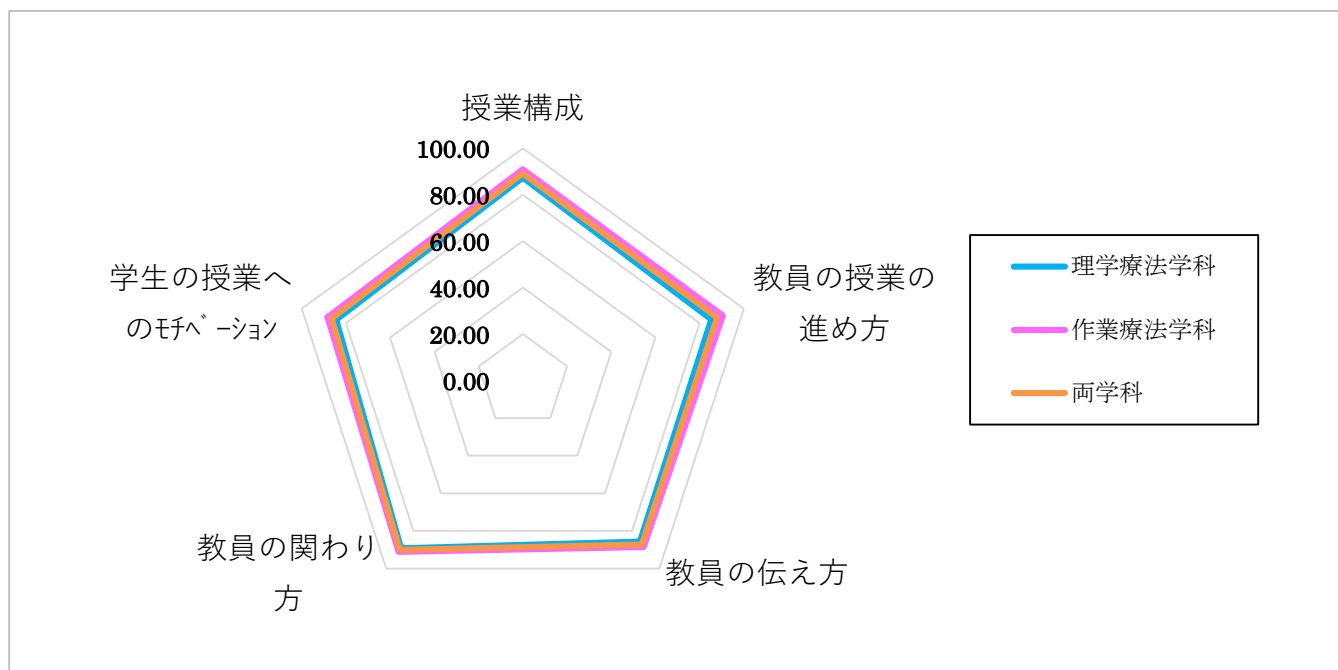
「強くそう思う」	: 5点
「そう思う」	: 4点
「どちらとも言えない」	: 3点
「そう思わない」	: 2点
「まったく思わない」	: 1点
「無回答」	: 0点

### 3. 結果

集計結果については、以下のような結果となった。

	理学療法学科	作業療法学科	両学科
授業構成	87.33	90.91	89.12
教員の授業の進め方	85.22	90.56	87.89
教員の伝え方	85.66	88.63	87.14
教員の関わり方	89.16	91.06	90.11
学生の授業へのモチベーション	84.53	88.41	86.47
総合 score	86.38	89.91	88.15





	理学療法学科			作業療法学科			両学科		
	R2	R3	R4	R2	R3	R4	R2	R3	R4
授業構成	90.55	89.60	87.33	85.46	88.14	90.91	88.01	88.87	89.12
教員の授業の進め方	89.48	87.78	85.22	84.22	86.40	90.56	86.85	87.09	87.89
教員の伝え方	88.70	87.86	85.66	82.92	84.18	88.63	85.81	86.02	87.14
教員の関わり方	91.25	92.07	89.16	85.57	88.23	91.06	88.41	90.15	90.11
学生の授業へのモチベーション	83.93	88.39	84.53	78.48	87.50	88.41	81.21	87.95	86.47
総合scora	88.78	89.14	86.38	83.33	86.89	89.91	86.06	88.02	88.15

(学生による自由記載欄のコメント)

科目	代表的なコメント
運動系統学 (PT・OT)	確認テストを頻繁に行ってもらい理解度を確認できた。 動画を用いて筋の付着や動きを見ることができてイメージしやすかった。 臨床を交えた話を含めた講義で、とてもイメージしやすかったです。 わからないところがあったらグループワークを増やすなど、理解するまで時間を十分とっていただき楽しく取り組むことができました。
臓器系統学 (PT・OT)	グループでのアウトプットを行う時間で内容を共有することができて、とても理解を深めることができました。 授業の合間で話し合う時間を取ってもらい手を上げたら質問に答えてもらうことがありがたく、学習する環境が整っていたと思います。 集中力の維持のために授業中の生徒の発言の機会がもう少し多いといいかなと思った。

<p>神経系統学 (PT・OT)</p>	<p>難しい内容ではありましたが、例えも分かりやすく苦手意識を持つことなく楽しく講義を受けることができました。</p> <p>臨床経験を活かした話があり、とても聞きやすく楽しく学習ができて満足です。</p> <p>国試と関連付けながらの授業であったため、授業だけで終わるのではなく国家試験と結びつけながら学ぶことができました。</p>
<p>リハビリテーション 概論 (PT・OT)</p>	<p>わかりやすい解説でした。</p> <p>国家試験と繋げて話をして下さったので、国家試験がどのような感じかわかりやすかったです。</p> <p>どこが重要なのか明確に示し理解しやすく、授業に取り組みやすかったです。</p>
<p>理学療法概論 (PT)</p>	<p>スライドが見やすくとても分かりやすかったです。学習のやり方なども本を紹介して教えていただき、学習の仕方を見直すきっかけになりました。</p> <p>グループ活動を進める中で社会性の部分も伸ばされ、良いグループ活動になりました。</p> <p>グループ全員が役割を把握し、計画的に進めることができました。</p>
<p>作業療法概論 (OT)</p>	<p>ひとつひとつ理解するのに時間をこまめにとってください、とても取り組みやすかったです。</p> <p>授業中の話し方など、聞きやすく楽しい授業でした。</p> <p>実習地での取り組みが実際働き始めたときに、どのように生きていくのかを深く考えることができた授業だったと思います。とても楽しく取り組むことができました。</p>
<p>運動器障害理学療法 学 (PT) 運動器障害作業療法 学 (OT)</p>	<p>授業の進む速さやグループワークの時間がちょうどよく、内容も分かりやすかったです。</p> <p>臨床の現場で役に立つことなども教えてもらいとてもよかったです。</p> <p>スライドがとても見やすく、イラストなどでもイメージが付きやすかった。</p>
<p>精神医学 (PT・OT)</p>	<p>区切りごとにグループワークがあり理解しやすかった。</p> <p>自分で教科書を積極的に使えるようになりました。</p> <p>教科書を読んでスライドに書き込み、班でアウトプットするという授業の進め方がよく理解ができた。</p>

# 授業評価総評

例年、久留米リハビリテーション学院では「授業評価」を実施しています。

令和3年度の授業評価との比較を行いました。なお、令和2年度より新たな評価項目として「授業構成」を設けています。授業評価の詳細は昨年度のパナーを参照してください。

先ず理学療法学科ですが、令和3年度の総合評価が89.14ポイント、令和4年度の総合評価は86.38ポイントであり、総合で2.76ポイント下がりました。詳細を見ていくと「授業構成」では2.27ポイント、「授業の進め方」では2.56ポイント、「教員の伝え方」では2.20ポイント、「教員の関わり方」では2.91ポイント、「学生の授業へのモチベーション」では3.86ポイントとすべての項目で昨年を下回りました。この数字を真摯に受け止め、再度今までの講義を振り返り改善を図る必要があります。

次に作業療法学科ですが、令和3年度の総合評価が86.89ポイント、令和4年度の総合評価が89.91ポイントであり、総合で3.02ポイント上がりました。詳細を見ていくと「授業構成」では2.77ポイント、「授業の進め方」では4.16ポイント、「教員の伝え方」では4.45ポイント、「教員の関わり方」では2.83ポイント、「学生の授業へのモチベーション」では0.91ポイントと、すべての項目で昨年のポイントを上回りました。

学生の学習意欲の向上を図り、慢心せずより良い講義ができるように取り組んでいきたいと考えます。近年、学生の成績向上のために、居残り学習や早期からのグループ学習の導入など様々な取り組みを行っておりますが、やはり学習の原点は「予習をし、講義をしっかりと聞き、復習をすること」だと考えております。そのためにも、学生がいかに関心を持って講義に臨むかが重要であり、学生の自主性を導き出すよう講義を展開させていく必要性を感じております。

当学院では前・後期終了ごとに授業評価を行い、それに対する振り返りや改善への取り組みを行っています。

今回の結果を踏まえ、各教員には「講義実施に関する課題とその対応」を認識してもらい、より良い講義となるように次年度以降の講義に取り組んでもらいます。

令和5年2月吉日

専門学校 久留米リハビリテーション学院

教務部長 大坪 健一